

製品名: OPN ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15358**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:500,ICC/IF 1:100-1:500,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	60kDa

抗原情報

遺伝子名	SPP1
別名	SPP1; BNSP; OPN; PSEC0156; Osteopontin; Bone sialoprotein 1; Nephropontin; Secreted phosphoprotein 1; SPP-1; Urinary stone protein; Uropontin
遺伝子 ID	6696.0
SwissProt ID	P10451
免疫原	抗血清はヒトオステオポンチン由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 261-310

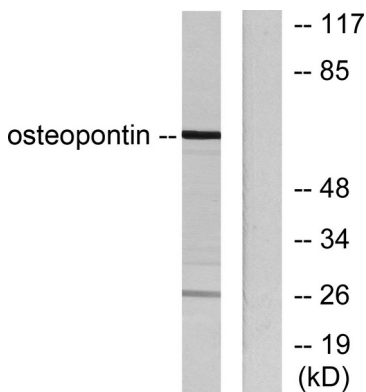
背景

分泌リン酸化タンパク質 1 (SPP1) ホモ・サピエンス この遺伝子によってコードされるタンパク質は、破骨細胞の石灰化骨基質への接着に関与しています。コードされるタンパク質は分泌され、ハイドロキシアパタイトに高い親和性で結合します。破骨細胞ピトロネクチン受容体は細胞膜に存在し、このタンパク質への結合に関与している可能性があります。このタンパク質は、インターフェロン γ およびインターロイキン-12の発現を上昇させるサイトカインでもあります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2011年10月],疾患: このタンパク質は、尿路結石形成において結石基質として主要な役割を果たす。機能: インターフェロン- γ およびインターロイキン-12の産生促進、インターロイキン-10の産生抑制に関与するサイトカインとして作用し、I型免疫に至る経路において必須である。機能: ハイドロキシアパタイトに強く結合する。石灰化基質の不可欠な部分を形成すると考えられる。細胞-基質相互作用において重要であると考えられる。オンライン情報: オステオポンチンのエントリー,PTM: クラスター化したセリン残基が広範囲にリン酸化されている。PTM: N-およびO-グリコシル化されている。類似性: オステオポンチンファミリーに属する。サブユニット: インテグリン α -V/ β -3のリガンド。 ,

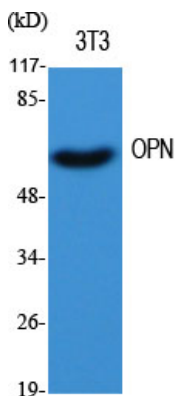
研究分野

焦点接着;ECM-受容体相互作用;Toll_Like;

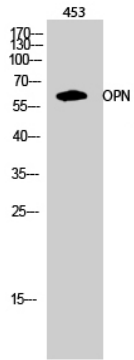
画像データ



オステオポンチン抗体を用いた LOVO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



OPN ポリクローナル抗体を 1: 500 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。



1: 500 に希釈した OPN ポリクローナル抗体を用いた 453 細胞のウェスタンブロット分析